

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193番地28 (電話) 0947-22-1434		
自己評価作成日	平成23年6月15日	評価結果確定日	平成23年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型事業としての活動に特に力を入れている。地域の老人会のふれあい交流に利用者と職員が参加をし、交流を図りながら地域の一員であることを意識できるようにしている。又、保育園や小学校との交流もこちらから積極的に出かけていくことにより、子供たちと触れ合う機会を出来るだけ多く提供できるようにしている。更に、個別ショッピングやバスハイク等日常生活に沿った外出の機会を出来るだけ増やし、毎日を元気に過ごすことを目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年6月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、緑豊かな山々に囲まれた自然の中にあり、木のぬくもりを活かしたゆったりと落ち着ける雰囲気のある木造平屋建て2ユニットである。隣接の特別養護老人ホームとは避難訓練等の連携も行われている。近隣住宅街と離れているが、地域との交流には積極的に向いていくよう事業所全員で取り組んでいる。管理者は、運営理念である「個人の尊厳や権利の尊重。利用者の能力を活かす。地域の一員として暮らす。」ことについて、職員がどのように理解して援助をしているか、具体的に言い表すことができるように指導を行っている。職員は、笑顔でやさしく接する介護ができるよう心がけている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流の3本柱から成っており、その実践のために年度目標を定め、職員と共に日々のサービス提供に努めている。	利用者が地域の一員として暮らすことを目指し、地域社会との交流を深め、生活の活性化を促している。職員は、日々関わりの中で試行錯誤しながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区でも初めてと言われている地区老人会の「ふれあい交流」への参加を実践したり、保育所や小学校への積極的な出張交流を図り、地域の一員として暮らせることを目指している。	事業所の行事を地域住民へ案内したり、地域行事や地域のふれあい交流会などに参加している。公園の草取りなどの清掃活動にも利用者が無理なくできることを自主的に行っている。地域防災の拠点施設としても利用できることを地域や行政に働きかけている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地区社協や老人会へ声をかけ、事業所として協力できることはないか働きかけている。又、認知症の人への理解や支援の実践的方法を模索している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、事業所の現状や行事予定、活動内容、外部評価の報告などを行っている。行事にできるだけ多くの方が参加できるよう配慮されたり、ウッドデッキや畑などの活用の見直しを行うなど、会議での意見はサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者と意見交換を行い、連携をとっている。	行政職員と地域の福祉関係者が集まる会議に参加している。事業所の問題や地域の課題について話し合っている。また、地域防災計画の事業所の役割などを検討し、行政に事業者ができる事はないか働きかけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の拘束検討委員会に参加し、協力して拘束のない介護サービスの提供に努めている。	日中、居室や玄関は施錠せず、職員は外出傾向のある利用者について把握し見守り、身体拘束をしないケアを実践している。また、内部研修を積極的に行っている。隣接の施設や地域にも協力し依頼し、防災放送も活用されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設の拘束検討委員会とも協力しながら、虐待に対する研究を行い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。	権利擁護について内部研修を行い、職員は成年後見制度の必要性を理解している。管理者は、必要に応じて利用者・家族に成年後見制度の説明を行い、活用できるよう支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。	家族会や家族の面会時など、意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや言葉かけを行っている。また、家族は運営推進会議に参加して意見を述べる機会があり、意見は運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やその他の機会でも、職員と様々な問題について話し合っている。又、必要に応じ個別にも話し合っている。	管理者は日常的に職員からの運営に関する意見を聞く機会がある。職員も気づいた時に管理者に改善策を提案している。職員の見解は殆ど受け入れられており、最近では飲み物の種類を増やし、緑茶や紅茶、コーヒーなど好きな物を利用者が選択できるようにメニュー表が作られている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。</p>	<p>採用にあたっては、性別や年齢に関係なく、事業所運営の理念に基づく適正や熱意、職場に合っているかどうか等を考慮している。また、内部研修を通じて職員のスキルアップを図り、経験や資格に応じた教育訓練や研修を行っている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の研修等には極力参加するようにしている。又、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。</p>	<p>利用者の人権については日々のケアの中で学習を行っている。また、内部研修を行い、外部研修にも参加し、人権に関する啓発や教育に取り組んでいる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通して目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入の段階ではまず、本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。その上で思いや不安、要望を聞き、本人の置かれている状況を理解することにより、安心して頂けるように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入の段階では、これまでのご家族の苦勞や入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、思いや不安、要望、今必要としている事について、共に考えていくことに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴から出来る事や得意な事を見出し、本人が出来る力を発揮出来るように支援している。又、一緒に食事をしたり、調理をしたりして共に生活が出来るようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況変化時や家族面会時に、利用者の様子や日常の出来事、職員の考え方を細かに伝えることにより家族と情報を共有し、共に支える関係を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活地域の交流に参加したり、馴染みの人々の訪問を歓迎したり、利用者の馴染みの場所での買物をしたりしてこれまでの関係が途切れないように支援している。	地域の敬老会、ふれあい交流会に参加し、知人・友人と話す機会を設けている。手紙や電話、年賀状など利用者の希望に応じて支援を行っている。訪問者に対しては、気持ちのよい雰囲気でもらうよう配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を尊重しつつ、居室での引きこもりが無いように他の利用者との関係を重視しながら、食堂や和室、廊下のソファ等で他の利用者と共に過ごす時間を増やしている。音楽を聴いたり、ゲームをしたりして、共に過ごすことができるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったりして継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心掛けている。又、声掛けを行う際も本人の意思が尊重できるように心掛けている。	入居時に利用者や家族から聞き取った暮らしぶりや思いを入居後のケアに活かしている。日々の暮らしの中で知りえた利用者の思いや意向は、管理者及び職員が意見交換しながら支援を行っている。意思表示が困難な場合は、普段の言動や表情から汲み取り把握するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話合いの中からこれまでの生活習慣や暮らしぶりを把握し、今後何が必要か検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、終礼、ケアカンファレンス、介護記録等を通し、利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態を全職員で情報交換をしながら把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや要望の聞き取りを行った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人や家族の意向に基づいた利用者本位の介護計画を作成している。	職員全員で利用者一人ひとりの状況を話し合い、それをベースに担当者会議でケアプランを作成している。また、担当者会議にも家族の参加を呼び掛けて、最終的に家族の署名押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルに食事、水分量、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。又、朝礼や終礼にて申し送りをを行い、職員間で情報を共有し、継続介護できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも応じられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等を頂き、日々のサービス提供に生かしている。又、社会福祉協議会や地区老人会の皆様、ふれあい交流、保育所、小学校にも御協力を頂き、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人にかかりつけ医があれば、基本的には継続的に医療が受けられるようにしている。	利用者・家族が希望する医師をかかりつけ医とし、継続的に医療が受けられるように受診を支援している。また、家族との連絡を密に取り、情報の共有もできている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の生活状況や特徴を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医や家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようになっている。	重度化した場合の同意書を作成しており、利用前に話し合いを行っている。また、併設施設の医師・看護師との連絡を密にして状況の変化に応じて対応できるように随時話し合いを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。又、マニュアルに基づく勉強会を行い、職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に防火訓練を併設施設と共に実施している。スプリンクラー設備の設置も完了している。又、自動火災通報設備の設置により緊急連絡体制も整備している。	年に6回の避難訓練を実施し、消防署の立ち会いも年に1回は行っている。また、連絡網を作成し、災害発生から短時間で現場で活動できるシステムを構築している。非常食についても事業所内に準備できている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの侵害にならないよう排泄時や入浴時には配慮した言葉掛けや介助を行っている。	内部研修を行ってプライバシー保護についての認識を深めている。また、職員の空いた時間を見計らって度々話し合いを行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等、毎日のコミュニケーションを通して、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人等、その人のペースに合わせたの行事への参加や、したい事等の選択をしながら毎日を過ごせるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や行事食のメニュー等利用者の希望にも配慮している。又、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理のない範囲で手伝ってもらっている。	味付けなどの食事の準備、食事、片付けを利用者と職員が共に行っている。また、利用者の要求に応じてご飯、パン食、おかゆ、キザミ食に対応している。食材の中に菜園で採れた野菜を入れるなど食事を楽しむことができるように支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のBMI値やアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。又、毎日の食事量や水分摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンやリズムを把握し、トイレへの声掛け、誘導を行うことで尿取りパットやオムツを使用しないですむように支援している。	排泄パターンを記録しており、それをベースにトイレ誘導をさりげなく行っている。利用者の行動にも注意を払い、その仕草によって、利用者の尿意などを察して誘導をしている。排泄の自立に向けた取り組みにより、おむつ使用の利用者がトランクス着用に改善された例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、昼夜問わず利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	毎日の入浴が可能である。入浴を拒否される利用者には、利用者が気に入っている職員が対応したり、言葉かけの内容を工夫する等利用者が入浴を楽しむことができるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に生かしていけるよう心掛けている。(畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等)		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取り組みとして、出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じて対応している。	天候に応じて散歩はほとんど毎日行っている。食材を毎日物産館で購入しており、利用者も一緒に出向いて品調べをしている。ふれあい交流と称して地域の温泉にも地域住民と一緒に出かけしており、外出の頻度は高い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理してもらっている。金銭管理が出来ない方にはショッピングなどの外出時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月「月間行事表」や3ヶ月毎に「ふくちだより」を郵送し、ホームの様子を知らせている。日頃来所出来ない家族には一言添え、利用者の様子が判るようにしている。又、本人の希望があれば、電話を掛けられるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮している。ウッドデッキには季節の花のほか猫を飼うなどして活用している。トイレは尿集などしないようこまめに掃除をしている。	広いウッドデッキが二面あり、ゴーヤを植えて緑化する取り組みやよしずを張る等居心地良く過ごせるように工夫している。琉球畳を配した和室などもあり、落ち着いた共用空間作りに配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。	各部屋に温湿度計を設置しており、換気心がけている。各部屋には個性があり、利用者の好みと趣味を大切に部屋作りを行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流の3本柱から成っており、その実践のために年度目標を定め、職員と共に日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区でも初めてと言われている地区老人会の「ふれあい交流」への参加を実践したり、保育所や小学校への積極的な出張交流を図り、地域の一員として暮らせることを目指している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地区社協や老人会へ声をかけ、事業所として協力できることはないか働きかけている。又、認知症の人への理解や支援の実践的方法を模索している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者と意見交換を行い、連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の拘束検討委員会に参加し、協力して拘束のない介護サービスの提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設の拘束検討委員会とも協力しながら、虐待に対する研究を行い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やその他の機会でも、職員と様々な問題について話し合っている。又、必要に応じ個別にも話し合っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。又、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通して目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階ではまず、本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。その上で思いや不安、要望を聞き、本人の置かれている状況を理解することにより、安心して頂けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階では、これまでのご家族の苦勞や入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、思いや不安、要望、今必要としている事について、共に考えていくことに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴から出来る事や得意な事を見出し、本人が出来る力を発揮出来るように支援している。又、一緒に食事をしたり、調理をしたりして共に生活が出来るようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況変化時や家族面会時に、利用者の様子や日常の出来事、職員の考え方を細かに伝えることにより家族と情報を共有し、共に支える関係を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活地域の交流に参加したり、馴染みの人々の訪問を歓迎したり、利用者の馴染みの場所での買物をしたりしてこれまでの関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を尊重しつつ、居室での引きこもりが無いように他の利用者との関係を重視しながら、食堂や和室、廊下のソファ等で他の利用者と共に過ごす時間を増やしている。音楽を聴いたり、ゲームをしたりして、共に過ごすことができるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったりして継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心掛けている。又、声掛けを行う際も本人の意思が尊重できるように心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話合いの中からこれまでの生活習慣や暮らしぶりを把握し、今後何が必要か検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、終礼、ケアカンファレンス、介護記録等を通し、利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態を全職員で情報交換をしながら把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや要望の聞き取りを行った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人や家族の意向に基づいた利用者本位の介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルに食事、水分量、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。又、朝礼や終礼にて申し送りをを行い、職員間で情報を共有し、継続介護できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも応じられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等を頂き、日々のサービス提供に生かしている。又、社会福祉協議会や地区老人会の皆様、ふれあい交流、保育所、小学校にも御協力を頂き、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人にかかりつけ医があれば、基本的には継続的に医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の生活状況や特徴を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医や家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。又、マニュアルに基づく勉強会を行い、職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に防火訓練を併設施設と共に実施している。スプリンクラー設備の設置も完了している。又、自動火災通報設備の設置により緊急連絡体制も整備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの侵害にならないよう排泄時や入浴時には配慮した言葉掛けや介助を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等、毎日のコミュニケーションを通して、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人等、その人のペースに合わせた行事への参加や、したい事等の選択をしながら毎日を過ごせるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合せた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や行事食のメニュー等利用者の希望にも配慮している。又、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のBMI値やアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。又、毎日の食事量や水分摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンやリズムを把握し、トイレへの声掛け、誘導を行うことで尿取りパットやオムツを使用しないで済むように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、昼夜問わず利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に生かしていけるよう心掛けている。（畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取り組みとして、出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じて対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理してもらっている。金銭管理が出来ない方にはショッピングなどの外出時にお金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月「月間行事表」や3ヶ月毎に「ふくちだより」を郵送し、ホームの様子を知らせている。日頃来所出来ない家族には一言添え、利用者の様子が判るようにしている。又、本人の希望があれば、電話を掛けられるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮している。ウッドデッキには季節の花のほか猫を飼うなどして活用している。トイレは尿集などしないようこまめに掃除をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない